

昭和三十一年三月十四日招集(牙四号)  
第一回市議会定例会々議録



館山市議会第一回定例会々議録(第四号)

昭和三十九年三月招集

一 三月十四日(土曜日)

議事日程(第四号)

議案第四八号 議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処

第二 分に関する条例の制定について

議案第四九号 議会の議決に付すべき公の施設の独占的利用等

に関する条例の制定について

第三 議案第五一号 館山市水道条例の設置及び管理に関する条例

の制定について

第三 議案第五二号 館山市清掃事業運営審議会設置条例の

制定について

第四 議案第五三号 館山市固定資産評価審査委員会委員選

任について

第五議案第五四号

館山市職員定数条例の一部を改正する条例の

制定について

第六議案第五五号

清掃条例の一部を改正する条例の制定について

第七議案第五六号

市道路線の変更について

第八議案第五七号

つつじの購入について

第九議案第五七号

館山市建設計画の変更について

十四日 午前十時

開会

・議長(黒川佐太郎君) 本日の出席議員数 二十八名

このより第一回定例会第四日の会議を開会いたします。

本日の会議はお手元に配付の日程表により行ないます。

この際おはかりいたします。本日の議事は議案の朗読

を省略したいと思ひます。このより異議ありませんか。

「異議なし」と申す者あり」

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって決まりました。  
日程第一議案第四十八号及び第四十九号を一括して議題といたします。

・総務課長（山口実君）議案第四十八号について説明申し上げます。  
議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例でございますが、これは従来おのおの地方公共団体の判断にゆだねられておった関係上、それらの種類や金額等につきましても、各市町村まちまちであつたのでございます。それらの基準を今回自治法改正によりまして政令によって基準をきめたのでございます。その内容でございますが、政令できまされた工事または請負金額の限度でございますが、工事請負の額といひましても三千万円が限度となつたわけでございます。また不動産、動産の買入れについては二

千万、土地については五千平方メートル、こうように議決事項として限度額が示されてあります。これは大幅に額を上げざるを得ないで、この点につきましては、議会の議決を軽減するような結果に思われるわけでございますが、この点につきましてもあくまでも予算の審議に及ばない、そうして正確に執行するように執行者に義務づけられているのであります。

・三五番(荻生田七郎君)これは議会が責任といいますが、決定といいますが、権限縮小でそれだけ責任というものが執行機関に付与された。これは自治法改定によって指示に基づいてこのように決定が行なわれたのか。

・助役(小出武男君)さうでございます。この法の改正を考えた方につきましても、新聞紙上にもありまうたように予算で議決をいたした以上は、それを中心実体とするのは執行権に属す

る。こういう考えが基本になったものでございます。

従いまして私も執行面につきましてもは十二分に予算の議決を尊重いたしまして正確にこの執行をいかなるいかならない責任を感じずるわけでございます。

○二五番(荻生田七郎君)了解いたしまして。その場合に三千万以下、二千万以下のものを必要に応じてやった。その結果報告義務というものは裏づけないんですか。議会に対して勅役(小出武男君)これは決算によって市報告申し上げるものでございまして、その都度の報告義務はないわけでございます。

○二六番(岡武夫君)この条例はただ今の市説明の通り自治法改正によつて当然なことでございましてこれだけ議会の権限が縮小されたと我々は感ずるわけなんです。ございますが、そこで私市長に要望申し上げたいのでござい

ます。ただ今、終務課長さん、助役さんから忠実に予算を執行するという誠意あるお話があったわけで、私もそれは信じて、執行権のもとに忠実に執行されるよう切望してゐるわけでございますので、よろしくお願い申し上げます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や質疑なしと認めます。本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに  
 中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決するに  
 暫時休憩いたします。

午前十時三十一分 休憩

午前十時三十六分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
日程第二議案第五十一号を上程いたします。

厚生課長(吉田耕一君)議案第五十一号の館山市の水道施設  
及び管理に関する条例制定について、説明申し上げます。  
今回地方自治法の二百四十四条の二によりまして、この施設  
に対する施設と管理に関する条例を設けるのだ。議会の  
議決を経て条例に、なくてはならないのだという法上の精神  
によりまして、本市も従来館山市の簡易水道条例が  
あったのでございますが、それもここに含めまして新しく従  
来一般会計で実施してまいりました宮城水道、南条水道

こゝを含ままゝしてこの条例を制定しようとするものでございます。

内容につきましては現在行なっております簡易水道とかわりはありません。ただ新しくかわりまゝなものが、一条の設置と位置というものを明確にいたす次第でございます。従いまして従来宮城、南条水道というふうなものは水道料金として徴収せず、水道料の寄付金として料金を徴収しておつたものと、今回この条例化によりまして料金として取り扱つていくという考え方で設置を見たいわけでございます。

ほとんど簡易水道条例とかわりがございませんが、鈴水区域におきまして宮城水道、南条水道区域にありますところの区域がここに入つてきたという程度の改正でございます。以下、他の面につきましては、かわりがございませんので省略

まゐっていたのですが、最後〃二十五条料金について改正点を  
申し上げます。

表がございしますが、簡易水道の左間、蛇切につきまゝでは現  
在でございます簡易水道条例と同額でございます。

特に今回入りました上水道の宮城水道、それともう一つ、新  
く南条簡易水道という字句を作ったわけでございしますが、  
あゝは独立した水道でございまして水道法によりまして五千  
人未満の給水人口を持つ施設については、簡易水道として  
取り扱うというような観点から、南条につきまゝで南条  
簡易水道という字句を使いまして従来と同じような宮  
城水道と同じ取り扱いを今後進めて参りたい。このよう  
に考えまして南条簡易水道という言葉を使ったわけで  
ございますので、承願したいと思ひます。

そうして上水道の宮城南条でございますが、従来基本料

金というようなものには、寄付金でございまいらうで、ございませう  
でした。今回条例改正に当りまして基本料金を納めまして  
このようにきめたいというふうに考えるわけでございます。なお、  
簡易水道は波左間、鉈切につきまゝでは、十五方メートルに  
ついて一般家庭用で三百円だということでございます。

なお、宮城、南条につきまゝでは従来一トン当り十五円という  
ような話し合いにつきまゝで単価を話し合つて寄付金とし  
て受け入れておたわけでございますが、他は簡易水道とう均  
衡、或いは他は上水道とうつり合い等を十分勘案いたし  
まして一般家庭用に使つております計量器を付  
けてあるものとない家庭がありまして、そう二つに分けまして  
計量計のあるものについては、やはり簡易水道と同じ十  
立方メートルについての基本を定めなわけでございまして  
料金につきまゝでは、一方が三百円に對し一トン二十円と

いう程度で逐次今後他の類に合うようにしたいと思  
います。今回考え方としては、十五方メートル二百円とい  
うことで計画を立てたわけでございます。

超過料金につきましては、一立方メートルについて、簡易水  
道三十円、もうと二十五円というふうに考えまゝだ。

定額制につきましては、一世帯五人までということ、一応考  
えまゝで一カ月の料金で二百五十円、そうして一人増すごと  
に超過を四十円ということにお願いしたい。

なお、その他につきましては、特に変わった点はございませ  
ん。で、省かしていただきまゝで、これを四月一日から適用さ  
していただきたいと考えまゝで、古い館山市の簡易水道  
条例は廃止して参りたい。このように考えて提案した  
次第でございます。

。一四番(志村信作君) ちやうどお伺いいたします。が、専用給水装

置る方の表につきまゝして超過料金一立方メートルについて  
 家事用が三十五円、農業用が四十円とありますが、ここで  
 五円の差があります。そう次の料金と同じですが、片方  
 は、同じで片方は違います。これはどういうことですか。

・厚生課長(吉田耕一君) 簡易水道の方が超過料金が高いわ  
 けでございしますが、先ほど申し上げましたように上水道従来  
 の宮城と南条、この面につきまゝでは、基本料金というもの  
 がなかった関係で一トン単位で十五円の寄付金ともらつて  
 おつたということとでございまして、十トンになりますと百五十円、  
 基本を定めますとなるわけとでございしますが、やはり他のフリ  
 合ひ等もございまして、急激に家事用まで上げるといふ  
 ことは、困難という考えから、二百円という基本料金を  
 きめたわけとでございします。

超過料金についても一かより低いということとでございします。

急激に上げるわけにもいきません。ただ、超額料金もその他と同様にするとすることも考えなければならぬのではないうかというふうに考えて、この程度で最初発足して見たらどうか。取水他の簡易水道と同じような線に持つていく方針を持つてゐるわけでございますので、やはり承願いたしたいと思います。

○二五番（萩生田二郎君）寄付金からすつたりした姿になった。

この処置につきましても、全面的に賛意を表します。

ただ一つお伺いたうことは、私の記憶に区域の拡大期間の延長等につきましても、議会の同意を求めるといふうたことがございまして同意したまうた気がいたしますが、そういう関係から現在民間の会社経営が給水区域として置城水道に関係します。今度、給水区域が会社給水区域と合致する。そのため従来規定の形式

が取りなかつた。こういう変則が原則にかわつた以上、水道  
会社と、給水区域の妥協といひますが、法的な話―合  
いというものはどうなつてゐるか。その点を伺ひたい。

・厚生課長(吉田耕一君) 給水区域の面でございますが、会社の方と  
の話し合いについて現在やつております。なお、会社の方  
き得ない線まで、宮城水道でやるというふうなことにつ  
ましても、会社側との話し合いによつて進めてゐる次第でござ  
います。

・二五番(義生田七郎君) 関係質問ですが、給水区域というものは  
一つの許可認可事項であつて、営利会社という民間の  
水道会社にとつては特別な権利というものがある。

そういうものが認められてゐるというものが常識だと思ひま  
すが、そういうした場合、将来単なる話し合い程度で例え  
ば宮城を中心とする給水区域が、権利問題というおそれ

がないと、~~お~~も限らないのでございすけれども、正式に文書交換等によりきま—てはつきりそう—た面を解決—ておかないと悔いを後世に残すというおそれな—と—おいんですが、そう言う点につきま—て十分な措置をお取りになつてゐるか、商榷でよろ—ゆうでございす。

・市長（本間 謙君）水道会社の方は北条と鎌山が認可区域になつております。

軍より水道を市が管理するにつきま—て軍でやつておた宮城地区を認めてもらいたいという当時、田村市長から話がございま—てそれに同意—てゐるわけでございす。宮城地区は、実際は水道会社が認可された地区でございすけれども、現実には軍より水道があつてそれを市が管理—ておた。管理ではいけないで正式な認可がなければいけないから、認可—て水道会社が承認—

たわけです。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や質疑なしと認めます。本案はニハにて質疑も打ち切り討論省略原案通り可決するにや  
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は、原案通り可決さるゝた。

日程第三議案第五十二号を上程いたします。

厚生課長(吉田耕一君)議案第五十二号についてや説明申上げます。

今回市の清掃事業運営審議会設置条例を設置いたしまして、円滑な運営をはかっている。このように考えて上程した次第でございます。

市の清掃条例の十七条の規定によりましてお願いするものでございます。

審議会の所掌事務でございますが、市長の諮問に応じましていろいろの清掃事業にかかわる事項について調査や審議をお願いして本市の清掃事業の円滑な働きをまわしていただきたいと思つたわけでございます。

三条の組織八名で組織いたしましてこれを市長が委嘱するということでございます。

二項については任期、または欠けた場合の措置を規定したわけでございます。

四条は会長を置くということと、会長の任務、五条六条につきましても七条を含めまして、この会に必要な会議とかいろいろ事務関係等を規定してここに上げたわけでございます。よろしくお願いいたします。

・三番(君塚喜三君)こゝで、常任審議会は、民間の清掃業者に属することも審議の対象になるが、例えば、汲み取り料金の問題等について審議することができるとか、どうか、この点についてお伺いいたします。

・厚生課長(吉田耕一君)審議の対象でございますが、公け、民間を問わず、館山市の区域内の清掃業務の一般に對して対象とするということをお考へておるわけでございます。

二条々三項でございますが、清掃料金の問題をお話になつたようでございますが、当然、その面についても十分検討を加えまして、適正化をはかるという面から、こゝに審議会の意見を十分取り入れなければならぬ、ということでも設けたわけでございます。

・三番(山本昇君)当然、こういうものを依るべきでございます。

が、昭和三十八年三月十五日こういうこともうが依らして、それと  
きり第七十七条で審議会を依ることになっておった。

今日までなぜ依らなかつたか、今日こういうものを依る特別の理  
由を生じて依つたのか。この点お聞かせ願いたい。

。厚生課長（吉田耕一君）も答へ申し上げます。私どもも早く  
こうした条例に基きまして依るというような考え方であった  
わけでございますが、ただ今日まで延びたという点については  
遺憾に思っておるわけでございます。別に取り立てて遅く  
なったという理由を申し上げるやしませんですが、私厚生課にか  
えりましてこうした条例があり審議会を依って清掃事業  
の運営をすま上において必要であるという考え方からどう  
しても今回提案してこうした機関を依るようお願いした。  
今後こういうものはどうしてもなくてはいけないというふうな  
強い考え方のもとに提案した次第でございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中質疑なしと認めます。よって本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決すまじや  
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り決まじや。

日程第四議案第五十三号を上程いたします。

市長(本間 謙 君)五十三号議案の固定資産審査委員  
につきまゝでは、ただ今まで九重や和田守喜さんがなつて  
おったんですが、こゝ方は病気でやめさしてもらいたいとい  
う申し出がございまして。

長須賀や黒瀬さんは、こゝ人も病気で、あるところかも。  
任期満了でございまして、こゝ両名の改選をお願いする。

わけでございますが、長須賀地区から安田誠之助さん、豊  
房地区から安西敏太郎両人が、適任と考えまして皆さん方  
の承認を得たいと思います。

○四番(志村信作君)ただ今、市長より説明でございますが、こ  
の二人の概略の経歴を教えていたいただきたい。

○市長(本間譲君)安田さんは、扇屋さんという呉服屋でだ  
いぶ盛大にやっております。

なかなか頭が良くていろいろ仕事もやっております。

安田さんは、建設もやります。山仕事もやります。そういう方面に  
ついては以前、豊房の役場に出ておりますが、そういうこと  
については、くわーいと思います。

(「美談なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)市質疑なしと認めます。よって本案  
は原案通り、こゝにて質疑を打ち切り、原案通り可決す。

るに其議ありませんか。

(「其議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)此其議なしと認めます。よつて本案は  
原案通り決定いたしましむ。

日程第五議案第五十四号を上程いたします。

庶務課長(干場伊右エ門君)議案第五十四号の定数条例  
の一部改正について高等学校取員並びに幼稚園の取  
員について中説明申し上げます。

館内高校の工業科の今年は二年児の電気科一学級  
化学工業科二学級の関係の教諭五名それから実習  
助手二名合計七名合わせまして四十四人それから  
事務取員一名の増員でございましてこれが五人、使丁  
一名如えまして二名合計五十一人でございます。

幼稚園の方は船形幼稚園と北条幼稚園各一名ずつ教

諭が増員によりて教育取員三十四人、これは園長を含む  
数でございます。

使丁二人よりは前年と同様でございます。合算を以て三千  
六人ということでございます。

・秘書課長(小倉澄男君)統きまして第二條の監査事務局の  
定数条例の改正について申し上げます。

これは先般の審議をいたさきより監査委員会条例に  
おきまして監査事務局を置くというふうな機構の改革  
によりまして事務局長一名、その他書記と二名というふ  
うに改正いたしたいと思ひます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中質疑なしと認めます。よつて本案  
はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決す  
るに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り可決されました。

日程第六議案第五十五号を上程いたします。

厚生課長（吉田耕一君）議案第五十五号につきまゝてや説明  
明申し上げます。今回清掃条例の一部を改正したいわ  
けでございますが、清掃条例第十五条中の「別表」を「別  
表一」及び「別表二」に改めたいというふうに考えるわけでござ  
います。

十五条につきまゝでは、汚物の取り扱い手数料という条例  
になつておりまゝで汚物の収集及び処分について占有者  
または汚物取り扱い業者に対し別表に定めま手数料  
を徴収するものだということが規定されておりました。たゞし  
別表の規定のない事項については、その都度市長が定

めるうだということになっておりまして、これを別表を通り改正したい。このように考える次でございす。特に手数料のうちかわりまゝな点につきまゝでは、別表一、汚物取り扱の手数料でございす。が、ゴミとか焼きばらというような種類をこのように改正いたしまして料金を徴収したい。このように考える次でございまして、それから、尿取や取り料で運搬料と処理場搬入手数料の改正がおもなものでございす。大体、尿運搬料でございす。が、従来二十円であつたものを、今回二十五円以内とするとなつております。が、二十五円にしたいというふうに考えておるわけでございす。搬入手数料につきまゝでは、一般家庭、或いは許可業者一、ハキロリトル十石三百円、これは従来と同じでございす。が、このようにしたいと考えます。

次の二表の方でございす。が、浄化そう、汚物収集、手数料

料の規定を今回設けたわけでございますが、そう切り削  
除していただきたいと思ひます。は、区分する「算定額に  
よる料金」というのがございますが、これは渠下で十数カ所  
を抽出した平均算定額による料金を出したわけござ  
いまして、この欄を全部が参考にあるわけでございます。で、  
この欄を全部抹消していただきたいわけでございます。

第二表のや説明を申し上げます。

基準型標準料というのがございますが、区分のところの  
数の割合につきまして、こうたもりに換算をいたしま  
ております。料金を徴収するといふふうに考えるわけござ  
います。

それから特殊型標準料金というのがございます。

これは各会社、新しい方式による簡便な浄化そう式  
があるそうでございます。各会社による特許の施設とい

うような面を特殊型標準という名前を使っておるわけでございまして、そういうものについてはおきおうこうなような料金を徴収するということにきめていただきたい。このように考えて提案したわけでございます。

・二番（君塚喜三君）――取分取り料金の問題なんです。このままで、一斗について最高値段が二十円という規定がまいておった。これは今日までずっと改正を見ていいと思うのであります。現実におきましては、取分取り料金は当初に比較いたしまして倍額は上がっているという方が実情でございまして、今ここで料金を値上げを見な場合には、これは大きな問題になっておくと考えられます。現に巻向におきましては、非常に批判の対象となっておるわけでございます。まことに菊井議員を前にして申し上げることは申し上げづらいのであります。――現実

は現実である。

率直に申し上げてや理解を願わな

ければならぬと思うわけであります。

巷間におきましては、後難をおもひてもう取んでやらないのだ。取んでくれないということがあつては困ると思うからだよ。つてそのままにしておる。一かゝりではこの問題については、批判がなされてゐる。こゝが現実であります。

私う家う例をとりましても当初二百五十円が今日五百五十円であつたり、五百円であつたり。倍にもはね上つてゐる。同ト量、取れ取りに對して、それだけかわつてきてゐる。おそろく管理者でなく、先従業員、不見識によるものでないかというふうにも思ひます。と、ともかく今もなつと話を聞いて見ますと、三百円であつたり、六百円であつたりすることもあるというふうなことも聞いてあります。こゝのような状況にある。こゝで五月、値上げということと

見た場合にこれは、非常に大きな問題になってくるのでは  
ないかと考えるわけであります。

そこで私は執行部の方考えをお聞きたいと思うのであり  
ます。先だって三月九日の新聞紙上にもありまうたよ  
うに「銚子」は戦国法人「銚子清掃公社」の発足を見  
ておるわけであります。清掃公社の設立をやつてのけ  
てあります。

せつかく莫大な費用をわけまうて一尿処理場の完成を  
見たわけであります。

市民が、こゝができれば、汲み取り料金が少くは安くな  
るであらうということに期待しておったところが最近ど  
んと上つて、また上るゝということに対して市民として大  
きな問題にならうかと思ひます。

できることならば、私は市において汲み取りをやゐる。そつて

清掃公社の設立に市努力がいたいただきたいと思うわけ  
あります。この点について執行部が考えをお伺い  
いたいたいと思います。

なお、汲み取り料二十五円、五月からはお上りということによ  
ほど考えていたきたいという要望を付け加えまして市議  
見をお伺いいたいたいと思います。

・厚生課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。値上げの市の考え  
方という点について最初に申し上げたいと思うわけであ  
ります。

いろいろ、ただ今、市意見がございまして、そう、また  
御書と申しますか、これはただ単に、録し、市のサでございせん  
で、私ども知る範囲においては、県下各市でも実施して  
おります地域では、この話を聞いておるわけでございます。  
一か一ながら、私どもも、県下の組合に出まいて、いろいろ検

討を如えなわけで値を上げるといふことは、五月上りますから確かに値上げてございます。

―かゝ！他物価の均衡、労賃といふような面からいけば、やはり値上げでもないといふふうな結論を見たわけでございます。

現在までの二十月が高い家庭もあると思われます。―かゝ二十月ではとうていでき得ない地域も相当数あるわけでございます。そして、そうした面を総合いたしまして二十五月という額は、館山市としては決して高い単価ではない。

県下の抽出いたしまして資料から検討いたしまして、これでもまだ本當やらいへば、多少色があるだろうけれども、―かゝ急激な値上げといふことはとうてい困難だろうといふことからして、最低の適正な価格として認めたものが、二十五月といふことでございます。

なお今後値上げいたしましからいいというものでございませ  
んし私ども適正な価格だというふうに考えた場合に十  
分業者等につきましても監督指導いたしましてぐち  
批判等々ないように最善を尽くして指導していきたい。  
このように考える次第でございします。

なお、今後、問題でございしますが、公社とか、市営とかい  
うような考え方でございしますが、私どももそういう面について  
現在検討を加えておるわけでございします。

銚子におきましても市営で始めた。一か一かなかなか困難  
で運営でき得ないというので公社に切りかえ。或いは別に  
一部組合的なものを依つてゐたというふうな面もお伺  
いしてあるわけでございしますが、そういう地域、状況におき  
ましても完全にこわがいいのだからという線まで、まだ参つてお  
らないようでございますので、当分におきましても今後十

調査検討を加えまして市民の迷惑にならないような負担の軽くなるような方向へ、不満のない運営ができればよろしく十分検討を加えて参りたい。このように考える次第でございます。

二五番(萩生田七郎君)別表二でございます。比較資料がござい  
いませんで、もう一回や説明願いたい。

一尿浄化そう、これはだれか払って市が取ると思うんですが、

厚生課長(吉田耕一君)別表二の料金につきましては、館山市は  
道営でやっておりますんで、許可業者がございます。業者  
が収集した場合の料金でございます。

二五番(萩生田七郎君)会社が収集したということは、学校その他  
集団的な千人を越える、或いは三十人というふうに区別して三千  
人うところでは、この程度取ってもよろしいのだという基準の料金  
を示してこれを業者に実行してもらおう。こういう意味でござい

ますか。

・厚生課長(吉田耕一君) さうでございます。

・二五番(荻生田二郎君) それとも一つ伺いたいんですが、市が直接やっております、学校その他、こゝと民間業者と、地域区分と申しますか。この協定と申しますか。今いったように業者も相当苦しいんです。ああいう商売ですから、従業員も少ないから、なりてがないからある程度、うんと取っていかねばならない。といって、市民が過重な負担をしなければならぬ、ということではない。

円満な運営ができる方法を講ずるために、餉子あたりは、市営と業者とう完全な協定区分ができ上っております。料金も比較的安い。そういう点につきまして、市の基本的な考えをお伺いしたいと思います。

・厚生課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。業者と市、現々取り

う区かでございしますが、まだ現在のところ市は大幅的な市営の取り取りという様まで踏み切っておりません。従いまして、現在実施しております市の施設と申しますか、学校とか、出張所、或いはその他、市の施設、並びに公衆便所というような程度を市の収集によって取り取っておるということでございます。いま、業者という話、合いはできております。

なお、今後の問題につきまして、これ以上、まだ踏み切る段階にはいっておりませんので、このままで進んでいきたい。このように考えております。

・二五番(萩生田七郎君) 岡津質問ですが、業者と、話合いは、完全にできておる。現段階においては、すでにやるのは、市営物件を対象にするということですが、話合いが、完全にできておりますか。再確認したい。というのは、必ずしも業者は、釈然としない、私は考えるのでございますが、

・三番(安藤萬吉君)議事進行に關してですが、今の議会で、議事はどうか知りませんが、こういった関係性のある議事というものは、かつて鳩山議員が水道関係について議事を進める場合に議場を遠慮してもらったんですが、今般菊井議員が業者であらゆるで、こういう審議をすすめるという場合、私う時分には遠慮してもらったんですが、今回はそのままでよろしいんですか。

・議長(里河佐太郎君)差一つかえありません。

・二五番(萩生田二郎君)私、質問に対して答弁を求めます。

・厚生課長(吉田耕一君)市の収集と民間収集というものについては、業者と話し合いがたいておりまして、市の収集区域ということはこうだというはつまり、話し合いがたいております。

・一三番(菊井敏博君)さっき私が名が来たように、私は料金問題では非常に不足なんです。

二十九年に二、清掃条例が出てから、現在まで一銭も上っていない。諸物価は上っていても一銭も上らない。私々会社はこゝで皆さんにはつきりいいますと、議会で約束いたします。  
一千万以上赤字が出てゐる。

・議長(黒川佐太郎君)一三番議員君、私ということではなく、業者う一人ということでは……

・一三番(菊井敏博君)では業者う一人として君塚議員ですが、どなたでも結構なんです。が、館山市でこの清掃業を貴任を持ってやってくれる人は、私の現在の会社をそのまま提供いたしますから、その点も含めの上、お願いいたします。

・議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時三十分 休憩

午前十一時五十四分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
午前十会議はこゝにて休憩といたします。

午前十一時五十五分 休憩

午後一時十二分 再開

議長(黒川佐太郎君)午後、出席議員数 三十名。  
休憩前に引き続き会議を開きます。

五十五号議案に対する質疑を続行いたします。

二十六番(関武夫君)ゴミの取り扱い手数料でございますが、具体的にどうなっていますか。市のご料料旋であらうふうな市民の喜ばれろやり方をやっていたいておりまして、家庭と市政とつながり上、本間市政の中で最大のコストの一つだと思っております。

が、容器の大小にかかわらず、月四十円ということでは市民も喜んで協力してやりますが、具体的にどうなんですか。や説明願いたいと思います。

。厚生課長(吉田耕一君) 取り扱い手数料の点でございす。

特に一般家庭でございす。が、今回この改正で一般家庭の中の算定基礎を日量と認定、これに分けたわけでございす。それともう一つ市の指定する容器収集によるものということと、この三つに分けたわけでございまして、このうち最後の容器収集対象の一般家庭の場合でございす。が、従来容器収集について条例化がなかつたわけでございす。従いまして一般家庭の従来は十円、百円、百三十円、百五十円という一つの基本に基づきまして料金をいただいております。年度当初におきまして容器収集に切りかえて見ようということではモデル地区として

の計画を四百五十世帯程度三十八年度に依つてやつて  
みたらということ、大体四百五十世帯分を予算化しなわけ  
でございす。その結果にしまゝて、我々はモデル地区であ  
るというふなととその他面ういろいろ配をすまうだという  
ことからその地域の話し合いが七十月では無理じゃないかと  
いうことで話し合いによつて市長が認めなということもとに  
四十月という線がまたわけでございす。それがずっと成果が  
上りまゝて三十八年中うもろについては四十月でその後ふえ  
る部面につきまゝてもやううというふうなことで話し合いに  
よる計画で現在まで進んでおたわけでございす。

今回、それを相当効果も上つておるといふようなことからして、正  
しい条例化していこうという考え方でこの条例に特別に市  
指定の容器収集というものを加えまゝて一般の七十月に対  
して四十月でなく六十月にしていただくというところで、こ

提出した次才であります。

・二六番(岡武夫君) 従来、四十円は、実際に安い。よく四十円でやつてもうえるというふうに私も考えております。

六十円になつても決して高いものではないかもしれません。

――かゝる各町内会では、市の方針に是非協力するようになつて、呼びかけて、一所懸命、命、あつ組織を作つたわけでございます。その場合に四十円ということがやはり受ける家庭に取りますと、なるほど安い。あつて、週三回きてもうって四十円ということなら安いということでも入ってくるわけでございます。入つてやつてもうつと、ハエも生じない。まゝいになるということでも、市、行政に対して感謝しながら、協力をしておるわけでございます。実施後早いところは、十カ月位になるかもしれませんが、今年になつて始めたところもあると思ひます。それがわずから期間に五割も上るということは、

町内会の方針に側に取りますと、市民に対して何かベネン  
 という言葉は変ですが、足元を見越したような感に受  
 け取らざるやではないかということも憂えるものであります。  
 せっかくいい行政をやったんですからやはり今年一年位四  
 十月でがまんしてやっていただきたい。私はこう念願するもので  
 あります。六十月が決してどうこうというものではないんで  
 すが、せっかく四十月ですべりおーなんですから一カ年位甘ん  
 ばってもらいたいと思うものであります。

。三三番(君塚喜三君)結論的に申さうでございます。大番議員  
 の中書向に全く賛成いたします。

我々も容容収集につきまゝでは協カ一人でございしますが、  
 環境衛生の成果というものは、全員こゝに協カしてこ  
 そ、その成果が期待できるものである。

こゝまでは地域別にモデル地区を指定してござっておりますが、

その地域の中には、例えば、煙を依つてゐる。これまでは、煙に穴を掘つてそこにゴミを捨てておつた。これなら一銭もかからぬわけです。——カー、ハエ、蚊の発生を防ぐというふうなことを考えたときに、そういうところこそ何とかせねばならぬということになるわけです。ところが、そういうところも協力させるために、は、四十円という金をおさせなければならぬ。

私も部落なども相当徹底しておりますが、率直に申し上げて、二軒非協力なところもある。それは、今いったようなところから、煙に穴を掘つて従前通りすることをやつてゐる。現在、こういう家庭も協力させなければならぬと、考えて働かかけてゐる矢先だ。そういうときに、ここで二十円、値上げということを打ち出さな場合、せっかく向うが協力が、態に度に出てゐるときに、その反対の方向に推しやつて、いさうなおそれがある。このことをよく考えていただきたい。これは、

ら金市に普及しなければならぬ矢先なんですから、一般  
財政から補助するという位に、でもやっていただきたい。  
かような意味からして、これまでが一カ月四十円という額をせ  
めてもう一年位はすえ置き、いただきたい。このような考  
えなんですが、執行部この点についてどのようなお考えな  
るか、答弁をお願いしたい。

・厚生課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。ただいま一六番議  
員、二二番議員からお話があったわけでございますが、私  
どもも五案の精神と申しますか、値が上がるという事実は事実  
でございます。一カーながら、今までは、特別な段階として条  
例の十六条の手数料の減免というように面を取り扱って  
おったのだというふうにお考え願えば結構だと思つて、私  
どももそういう考え方で本案を計画したわけでございま  
す。そのような関係からいまして、一方答答収集に切りか

えらぬない部分の条例によります。十月というものと、均衡  
という面も考えたわけでございます。

一般の従来のものであると一週間に一回ということも困難な  
状態でございまして、一方容器収集の面につきましても、必  
ず週に三回、実施してあるというふうな過程からいたし  
まいて、やはり解願えれば、この程度が一番適当な値段で  
はないかという考え方で、この案を作ったわけでございます。  
確かにや意見のようによつて、今段階が見方によつて相当相違  
があると思ひます。しかしながら、私もとりては、もうこのう  
いふふうに切りかえては、きつてた線に進む段階でもつて指  
導していきるんじゃないか。こういうふうな考え方で案を作った  
わけでございます。

・二九番（鈴木市蔵君）容器の問題なんです。船形の場合、  
船形が港が埋め立てられて、今までゴミを捨てておいたところ

が捨てられないで困ったんですが、おかげさまで市でこういうもやまやまということで、藤田議員と町内会長さんに来てもらって助役さんにもう問題をよく話した。そうしたら我々の意見を受け入れてくれて補助を出してくれました。これは藤田議員がそばにいたから証人なんです。助役さんの言葉では今は暫定的に四十月もらっている。

だが、鶴山市として考え方はゴミの問題が軌道に乗ってきたら無料でもって捨ててやる考えがあることを二人の前で堂々といった。それにもかかわらず、軌道に乗ってきて、今日になって値上げというものは、私は考えられない。

我々は市においてそういうふうなやっていたいとおもうだからといって町内会として自分も区長をやっておりますから、区長としてサーでも市の手助けになればと思つて川石じゅうご金を集めてそれを集めるのも一日で集まらない。そうして、

市に協カ―て金を集めて二十八日、市に係に渡してやる。これだけ我々は協カ―てゐる。それにもかわらうと、値上げをするということは、助役さんや前いった言葉とは相当食い違ひがでてゐる。ニニ番議員は正道だから一年といただけども私はやめて五カ年間はすえ置きたいといひたい。とどう考えを持っておるわけで私は助議を提出してこゝ修正案を出してみたいと思ひますが、こゝ点は助議を出す前に助役さんに一言できるかできないかということについて答へ願ひたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後一時三十分 休憩

午後一時三十分 再開

議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

助役（小出武男君）ただ今の使用料、料金、う点でございますが、私ども考えとしては、こういた市民全体、清掃関係のものに、つきましては、なるべく住民の負担からはずして市がやることは、私は理論として持っております。

すぐやるということとは、鈴木さんにいった覚えはございません。考え方としてそうあるべきとはいつたかと思ひます。

それでただ今の点でございますが、提案者、市長と相談いたしまして結果、とりあえず、そういう気持ちもある矢先でも、エコー、皆さん、御意見見でもあります。一応原案を訂正して四月としていたいただきます。（拍手）

議長（黒川佐太郎君）おはかりいたします。ただ今、原案訂正の申し出があり、これに、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(黒川佐太郎君)市議なしと認めます。よって原案は可  
正さよまーた。

二五番(萩生田七郎君)先ほど来、尿尿汲み取り(糞)搬投入費の  
問題で全員協議会が席上で私もう知らない知識を得た  
わけでありするが、今後審議会において相当検討せねばな  
らないことがあるのではないかと想像されるのであります。

例えば、料金の徴収方法について人数割でもって徴収すると  
が、或いは、実際問題として一斗果して一斗あるのか、汲み取  
らねた方々方にはわからない。こういういろいろの問題があり  
ますけれども、基本的にはやはり我々は、より多く市民  
ということを第一に考えねばなりません。

換言すれば、より適正な負担が少ない金額において、  
市民が汲み取りでもらえるような環境を作り出すと  
いうことが第一条件でなければならぬ。

ーかーながら、それのために、やはり業者、それも、運賃  
できる条件というものも考えなければならぬ。おまうに  
考えます。そういう意味において、当局においては、この原案  
は別として、そういう現実の問題として、そういうものを、適  
正に処理する方法について、審議会、設定並びに市、設定  
後において、審議会がなすべき仕事、それによって、ただいま  
申し上げたような問題を、取り上げて、そうして検討して  
その決定に基いて、この原案というものを、対して、大幅な修正  
をやらざるを得なくなつた場合に、修正をする中、意思がお  
ありかどうか、それを承わりたいと思ひます。

・市長（本間 謙君） 審議会は、そういうことを検討する中でござ  
いますから、その結果により、それで、それを市会に、なまうて  
変更する考えでおります。

・議長（黒川 佐太郎君） 本案は、これにて、質疑を打ち切り、討論

省略原案通り可決するに由異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 由異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決せよとす。

日程第七議案第五十六号を上程いたします。

建設課長(新井重助君) 議案第五十六号の市道路線認定について由説明申し上げます。

認定しようとする路線は、房南中学の南側に神戸農協がございす。この付近は従来陸軍用地でございす。たゞが終戦後大蔵省財産になりまして付近一帯にわたりまゝに払い下げをやつてあります。ところが路線を認定しようという道路はきん中にございすので、これを廃止しますと過去に払い下げた方々の補路がなくなるという事で、関東財務局や千葉の方から道路を市に

認定していただきたい。そうすれば、市道に無償に譲与するからというお話がございまして、この二百三十九メートル幅十メートルの道路を認定しようとするものでございます。認定に当たりましては、市会が決議が必要でございまして、お願いする次第でございします。

この道路は全部コンクリート舗装になっておりまして、維持・補修につきましても付帯的工事はしてあります。一番（吉田勇治郎君）本題に直接関係ありませんが、参考までにお伺いいたしますが、これはくるといふから処理するんですが、結構ですが、処理できないようなところを処理することは必要とやないか。そういうたようなことが仄聞するところ西中から出てくる県道に漏れる道路、いまだかつて官有地になって認定も道路指定がなっていないというふうな現実はあるんですが、この点いかがでしょうか。

・建設課長(新井重助君) 失はども訂正をしますを忘れたが、  
「十一号線」となっておりますが、これは「二十四号線」の間違ひで  
ございます。

ただいまより質問の点ですが、あそこは村時代に村道となつ  
てありまして、合併と同時に市道に認定されてあります。

・一番(吉田勇治郎君) 市道になっておると我々も信じてありま  
した。が、何だかそうまゝになっておるということですが、そういつた  
ことはございませんか。

・建設課長(新井重助君) あゝは村時代に廃止いたしまして、そ  
う後、そのままになっている箇所がございます。

戦務局の關係はないと思ひます。

・一番(吉田勇治郎君) 議題外です。ならぬ調べよう上、できるものな  
ら、すつきり、た姿にかように願ひます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中質疑なしと認めます。よって本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに  
中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さしよりました。

日程第八議案第五十八号を上程いたします。

・観光課長(小沢正治君)議案第五十八号について中説明申し上げます。

先般三十八年度に追加更正予算で中決議をいたしましたが、中城山公園の開発促進のため、第一段階といつて、植栽用ついで千五百本を五十万円でもって、青梅市、東山園から購入したいものでございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（黒川佐太郎君）中質疑なしと認めます。よつて本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決すこにや  
異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よつて本案は、  
原案通り決まりました。

日程第十議案第五十七号を上程いたします。

企画室長（谷貝茂生君）議案第五十七号「建設計画の変更  
につぎまゝて」の説明申し上げます。

当市は新市町村建設促進法に基きまゝて昭和三十五年に  
基本計画と年次計画を立ててそれと現在実施中でござい  
ますが、三十九年度を迎へるにあたりまゝて、果や国々方針、  
市々財政事情等から三十八年度より事業の一部を変  
更と余儀なくさるゝので、変更して事業を実施いたし

たいと思うわけでございますが、この計画を変更する場合に  
は、新市町村建設促進法に基きまして、市の建設審議  
会、審議と議会の決議を経なければならぬ。そうして  
審議と議会の決議をする前に、果ては協議を経なければ  
ならぬということになっておりますので、二月二十日、果ては協  
議をいたしまして三月九日に館山市の建設審議会、審  
議を得ましてここに本議会、審議をお願いする次で  
ございまして、この計画変更の内容につきましては、重要  
的かつ重要事業と見なされるもの、事業費においてその  
財源が国庫、支出金、起債または融資と一般財源以外の  
経費が充たされる事業と特定財源を見込む新たな  
事業を計画実施する場合、以上のような内容を一応中  
審議の対象ということになっております。一応その計画を  
中審議願いとして事業の変更をお願いする次でござい

ます。

・議長(黒川佐太郎君)ただ今、議題となっております議案第五十七号館山市建設計画変更については三十九年度予算案と審議すべき案件と思われまします。

従いまして、この程度で説明にとどめ内容審議は後日にいたしたいと思ひます。　こゝに於て異議ありませんや。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よつて議案第五十七号の内容審議は、後日と決定さしめられた。

本日の会議はこゝにて散会いたします。

次回は三月十七日午前十時開会といたします。

その議事は通告による行政一般質問を行なひます。

通告は明十五日正午までに中提出くださるようお願いいたします。

午後一時四十分 散会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小沢 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 六三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

井田 実

石井 正

黒川 佳太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 惠太郎

関 武夫

藤田 好治

江田 徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鈴木孝

山田教宇

鈴木市藏

安藤電吉

安沢徳順

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

山口康

欠席議員

西村真次

保科忠夫

嶋田繁



